

◎景気ウォッチャー調査[2022年8月]
2022年8月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.5ポイント上回る45.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスに関する行動制限がなかったため、お盆の帰省等で、来客数は前年を上回っている。」(スーパー)、「新型コロナウイルスの重症化リスクが低いことから、客の旅行機運が高まりつつある。」(都市型ホテル)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.1ポイント上回る43.9となった。

企業動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「異常な暑さ、物価上昇、新型コロナウイルスの感染拡大等により、受注量が5~7%減少し、厳しい状況が続いている。」(食料品製造業)、「半導体不足による生産調整やエネルギーコストの高騰が収益を圧迫している。」(非鉄金属製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.3ポイント下回る46.2となった。

雇用関連は、「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「採用数の増加を目指す企業や目標とする採用数に至っていない企業が採用を強化しようとする動きがある。」(求人情報誌製作会社)、「求職者からの相談件数が前月比170%となっている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を6.2ポイント上回る54.7となった。

	8月	7月	前月差
合計	45.4	43.9	1.5
家計動向関連	43.9	41.8	2.1
企業動向関連	46.2	48.5	-2.3
雇用関連(参考値)	54.7	48.5	6.2

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を7.9ポイント上回る49.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「大型イベント等が新型コロナウイルス発生前のように開催されるようになりつつあり、飲食に関する制限も少しずつ緩和されているので、今後、景気は良くなる。」(高級レストラン)、「例年10月以降は秋の観光シーズンとなること、全国旅行支援の実施が検討されていること、インバウンドの水際対策の緩和により入国者数の増加が期待できることなどから、景気はやや良くなる。」(都市型ホテル)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.2ポイント上回る50.0となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「自動車メーカーが繁忙期に入るため、下期も忙しくなる。」(輸送用機械器具製造業)、「客が必要な品物であれば、少々価格が高騰しても購入するようになる。」(繊維工業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.1ポイント上回る47.7となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「企業側の採用意欲が高いため、今後、景気は良くなる。」(求人情報誌製作会社)、「これまで抑制していた中途採用を再開する企業が増加している。また、企業が事業拡大へ向けての増員を図ってきている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を11.9ポイント上回る53.1となった。

	8月	7月	前月差
合計	49.8	41.9	7.9
家計動向関連	50.0	41.8	8.2
企業動向関連	47.7	42.6	5.1
雇用関連(参考値)	53.1	41.2	11.9